令和４年度　第４回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日　時　令和５年２月２０日（月）午前１０時～
蒲郡市役所　北棟集会室

１　開会
事務局より、配布資料の確認
会長より、第３回議事録の承認

２　議題
（１）まちづくり活動助成金事業について
事務局より、助成金事業募集について、令和４年度実績報告会開催予定について、助成金事業の改善に向けた意見出しについて説明

・「まちづくり」という言葉の概念が広く、自分のやりたいことが当てはまるのか分かりにくい。
・はじめの一歩部門は、団体の立上げに対する助成金だが、既存の団体が新たに事業をはじめるときや、学校や地域とコラボするときなどには、２回の交付制限を超えていると利用できない。
・備品について、３万円を超える備品が必要なケースもある。
・自分の興味のあるテーマについて、同じように興味を持っている人とゆるく集まって話し合える機会がほしい。そのような場から新しい活動や団体が生まれる可能性もある。
・中央ファームは学区単位で活動しているため、草刈り機は地域の人や学校で借りられるため、経費はそれほど必要ない。
・小学校からは、昔遊びなど、今の若い先生たちが知らないことを依頼されることが多い。
・活動を始めて２年経ち、起動に乗ってきているが、６０歳前後の若手がほしいと感じている。
・細々と活動を継続していきたいと思っても、多少の費用は継続して必要となる。
・草刈り機など、シェアできるものは団体が有料で借りられ、その経費を助成金で補う等の仕組みがあるとよい。
・さかさま不動産では、空き家の情報をシェアするのではなく、空き家を使ってやりたいことや想いをシェアしてマッチングする逆の仕組みを上手く回しており、注目されている。
・２年目の活動について助成金を利用するかは迷うところがある。事務量はネックとなっており、書類の作成などに慣れていない人の集まりの場合は難しいと思う。
・活動を継続していきたいが、経費の捻出だけでなく、地域の事業とするのか、どのように続けていくのかも課題となる。
・事務の簡素化については、オンライン化や、事務の代行を誰かが請け負うなど、検討の余地がある。
・活動を地域や学校等の事業としていく場合にどのような支援が必要なのか、

継続する場合の助成割合を変えることなども含め考える必要がある。
・回数制限については、利用の仕方、見せ方の問題もある。
・助成金事業の改善については何度も話をしてきたが、改善されていない。
・助成金の相談の前にチェックリストのようなものがあり、大変なイメージを払拭できるとよい。
・どんなことをやりたいのか、どんな仲間がいるのかなどから進めていけるとよい。
・市民活動に使える貸出品のリストとして、借りられる場所、金額などの一覧があり、リースできるとよい。
・人材についても、昔遊びや畑、事務手続きなどお手伝いできることを登録する人材バンクのような仕組みがあるとよい。
・退職の年代の人を集めて、団体の活動を紹介し、マッチングするなどもよい。
・活動をはじめたいときに、どこに何の情報があるのか、どこに相談すればいいのか、借りられるものリストなど、必要な情報を確認できるサイトがあるとよい。
・対象経費について、講師料やデザイン費などは基準を提示することも必要ではないか。
・市民企画公募助成金は、活動ステップアップ部門を作り活動支援としてスタートしたが、助成団体に偏りが見られるようになり、はじめの一歩部門を作ったが、団体支援の要素が強くなってしまったように感じている。
・団体の中には、活動を変えて再チャレンジするケースもあり、そういう活動に対しては１回目としてはじめの一歩を利用してもよいのではないか。
・継続性に関しては、様々な助成金や制度をうまく使いながら、模索していくことになる。
・組織強化のための補助メニューを作っている自治体もあり、内部研修などは、組織強化に対する応援と捉えれば見せ方の問題でもある。
・活動をはじめたときは盛り上がるものの継続は大変であったが、地道に活動を続けたことで他の分野に広がりが生まれ、全国規模の動きにつながっている。
・事務的な説明よりも、実際活動を続けている人の話を聞くことの方が分かりやすいのではないか。
・まちづくりセンターで活動している人の話を聴ける会をやるのもよい。
・活動を広げるために、話し合いの場がほしい。自分たちから話すことで見えないことも伝えられる。
・実績報告会という場よりも、柔らかい相談の機会、例えば活動している方の体験談を聞くなど、気軽に参加できる場にできるとよい。
・活動を続けることは大変だが、続けることの楽しさが伝わるとよい。

（２）協働モデル事業について
事務局より、愛知工科大学との協働モデル事業について、令和５年度感性工学実践プロジェクトについて説明

・まちづくりとのつながりが見えてこない。授業のカリキュラムの分析対象

としか見えなかった。
・もっと広がりが生まれるような内容になるとよい。
・分析した先にどうなるのか、その後のつながりを作ることが必要。
・分析後のその先について大学として考え、伝えていくことをすべきではないか。
・例えば、ごりやく市のちらしを題材とする場合、学生がごりやく市に出向き知ることができ、ちらしを若者の感性に沿ったデザインとすることで来客が増えるなど。
・授業の枠で終わらないような事業とできるよう大学と協議検討すべき。

３　その他

委員の改選について
４月に募集を予定

次回開催時期について
６月頃の開催を予定